

3. ウヅキドクグモ *L. T-insignita* P. et S., 1906  
26. V. 1940 金北山
  4. スヂブトドクグモ *L. virgata* Kishida  
26. V. 1940 金北山
  5. ドクグモ一種 *L. sp.*  
26. V. 1940 金北山 ; 28. V. 1940 加茂村
  6. ドクグモ一種 (幼) *L. sp.*  
28. V. 1940 加茂村
- IV. タナグモ科 Agelenidae
1. クサグモ *Agelena limbata* Thorell, 1897  
29. V. 1940 金泉村
  2. タナグモ一種 (幼) *Tegenaria sp.*  
25. V. 1940 金北山
- 

## 香 川 縣 採 集 蜘蛛 目 録

小 松 敏 宏

(長野縣諏訪郡上諏訪町南衣之渡)

昭和十五年六月中旬から下旬へかけての約一週間 四國の中部から東海岸を採集旅行をした。その行きも歸りも香川縣を通つたので僅かながら蜘蛛を採集した。あたりの風光に心を奪はれて充分身を入れたわけではなかつたのであつたが、イハノヘトタテグモ ; 近く問題となつたドウシグモ ; ナカムラオニグモ等を採集し得たので目録を編み、同好の士の一覽に供したい。

### 1 金比羅宮附近 6月19日

- |                                          |                        |
|------------------------------------------|------------------------|
| 1 <i>Pachylomerus granulosus</i> Kishida | イハノヘトタテグモ              |
| これは參道の兩側の石柱上にも處々棲んでゐた。                   |                        |
| 2 <i>Atypus karschi</i> Doenitz          | ヂ      グ      モ        |
| 3 <i>Ariadna lateralis</i> (Karsch)      | ミ      ヤ      グ      モ |

4	<i>Enoplognatha foliicola</i> Doenitz et Strand	コノハヒメグモ
5	<i>Theridion tepidariorum</i> C. L. Koch	オホヒメグモ
6	<i>Argyrodes fur</i> Bös. et Str.	フタヲネサフラフグモ
7	<i>Linyphia marginata</i> C. L. Koch	サ ラ グ モ
8	<i>Pholcus crypticolen</i> Bös. et Str.	イ ウ レ イ グ モ
9	<i>Pholcus phalangioides</i> Fuessly	イヘイウレイグモ
10	<i>Uroctea compactilis</i> L. Koch	ヒ ラ タ グ モ
11	<i>Araneus ventricosus</i> (L. Koch.)	オ ニ グ モ
12	<i>Ero foliata</i> L. Koch	センセウグモ
13	<i>Philodromus spinitarsis</i> Simon	キハダエビグモ
14	<i>Agelena limbata</i> Thorell	ク サ グ モ

## 2 屋 島 附 近 6月23日

前出目録の 2, 4, 5, 7, 10, 11, 13 のほかに

15	<i>Oecobius nipponicus</i> Kishida	チ リ グ モ
人家の壁面にて採集。		
16	<i>Argyrodes tonadea</i> (Karsch)	シロガネサフラフグモ
17	<i>Teutana transversifoveata</i> Bös. et Str.	カレハヒメグモ
18	<i>Doosia japonica</i> (Bös. et Str.)	ド ウ シ グ モ

亞成體のもの、整理の際始めて上記の學名を擔ふものなる事を知つた。従つて採集位置の記憶はない。

19	<i>Araneus cornutus</i> Clerck	ナカムラオニグモ
屋島附近には無數棲息して居る。採集標本は亞成體乃至前亞成體。これは植村氏の見解に反するものではあるが、極めて四國の北端である事を思へば致命傷ではない。尤も既に「ナカムラオニグモの丸網に就いて」の稿の内に、成早さへも秋の晴天を選んで空中旅行に出發する事を記して置いたが、さへる習性を有する以上、稀薄な存在としては更に各所に採集せられる可能性は増した。		
20	<i>Araneus scylla</i> (Karsch)	ヤマシロオニグモ
21	<i>Araneus opima</i> (L. Koch)	コゲチヤオニグモ
22	<i>Cyolosa octotuberculata</i> Karsch	ゴ ミ グ モ

23	<i>Meta doenitzi</i> Bös. et Str.	ド ヤ ウ グ モ
24	<i>Tibellus oblongas</i> Latreille	シ ヤ コ グ モ
25	<i>Castaneira niger</i> Kishida	ジ ガ バ チ グ モ
26	<i>Clubiona kurilensis</i> Bös. et Str.	ヒ メ フ ク ロ グ モ
27	<i>Coriarachne fulvipes</i> (Karsch)	コ カ ニ グ モ
28	<i>Marpissa vittata</i> Karsch	ア ラ オ ビ ハ ヘ ト リ
29	<i>Hyllus lamperti</i> Bös. et Str.	ランペルトハヘトリ
30	<i>Iotus munitus</i> Bös. et Str.	アサヒハヘトリ
31	<i>Yoshidaia typica</i> Kishida	ヨ シ ダ グ モ
以上十六科二十六属三十一種。		

## 秋芳洞産ヒメグモ科一新種の記載

植 村 利 夫

(東京市瀧野川區西ヶ原町 310)

予は東京文理科大學動物學教室の高桑良興氏より、山口縣秋芳洞で池田美成氏に依つて採集された蜘蛛一種の同定を依頼されて調査中であつたが、今回これを新種と認めて此處に發表することにした。日本産洞窟性蜘蛛類の研究は、二三の採集目録が發表されてゐる以外、殆ど皆無に近い状態である。此處に記載する蜘蛛は洞窟性である事に間違ひはないが、それが爲に形態上の變化を起したと認められる點が少ない。只標本中亞成體のものは全て色彩淡く、全身灰白色に近いものが多かつた點に注目されたのみである。貴重な標本の研究を委ねられた高桑良興氏並に發見者池田美成氏に謹しんで敬意と感謝の意を表する次第である。

***Theridion akiyoshiensis* sp. nov.**

アキヨシヒメグモ (新稱)

模式標本 昭和14年(1939) 8月池田美成氏に依つて山口縣秋芳洞で採集さ